

油山 市民の森

40年のあゆみ

福岡市

シジュウカラ

油山市民の森 開設40周年をむかえて



福岡市長

吉田 宏

油山市民の森は、明治100周年記念事業として昭和44年（1969）に開設されて以来、満40周年を迎えました。

市民の森の開設にあたりましては、市民及び各界各層により組織されました「市民の森運動本部」を中心として、多くの方々の善意と創意のもとに整備されてオープンいたしました。

「市民の森運動本部」が解散した後は、その精神を引き継いだ「福岡市市民の森協会」の協力を仰いで、施設整備や植林を進め、緑あふれる森へと育ててまいりました。

この市民の森は、都会の喧噪を脱して四季折々の花を觀賞したり、鳥のさえずりを聞きながら散策したりできる市民の身近なレクリエーションの場として、また、自然観察ハイキングなどの活動を通じて、楽しみながら自然環境のしくみやあり方を理解する場として、広く市民に親しまれております。

また、市民の森におきましては、森づくりや自然観察のサポートなどを通じて、市民ボランティアの皆様にも、市民と共働で森を育てる活動も行っていただいているところです。

近年は、地球温暖化が大きな社会問題となり、森林の重要性が見直されてきております。そのようななか、市民の森におきましても、緑豊かな自然とのふれあいの場としての機能のみならず、水源涵養や環境保全の場としての機能への注目が高まってきております。

福岡市は、今後とも未来に向けて、森林を始め海や川辺などの自然を大切に、市民や企業の方々と共働で緑に彩られた都市づくりを行ってまいります。

これまで、市民の貴重な財産である油山市民の森の発展にご尽力を賜りました関係者及び市民の皆さまに深く感謝いたしますとともに、今後とも末永く市民の森を愛し、育てていただきますようお願い申し上げます。

開設40周年によせて



福岡市市民の森協会 会長

河部 浩幸

油山市民の森の、開設40周年おめでとうございます。

昭和44年に「油山市民の森」が開設されて以来、私ども「福岡市市民の森協会」も共に40年間、福岡市や市民のみなさまと一緒にこの市民の森を育ててまいりました。

開設当初に植えられたイチョウや桜・アメリカフウ等の幼木も今では立派に成長し、季節毎に彩りを添える緑豊かな森に育っており、大変喜ばしく思っております。

この市民の森は、都心近くにありながら緑あふれる自然が優しく保全されており、これまで多くの市民の方々に大変親しまれてきました。

市民の方々の市民の森を訪れる目的は、登山・キャンプ・自然観察会・森林浴など様々ですが、年間約18万人の方々にお越しいただいております。

市民の森協会におきましては、春のスケッチ大会やオリエンテーリング・油山十六景めぐりなどの自然教室も開催する他、様々なサービスを提供し、市民の森の開設以来森を愛し育てながら、皆様が快適に利用しやすい運営に努めているところであります。

このたび、市民の森開設40周年を迎え、今後とも、この恵まれた自然を生かし、緑豊かな「市民の森」とするため、なお一層の努力をしておりますので、市民並びに関係各位の御協力を切にお願い申し上げます。

市民の森の基本理念

市民の森は、福岡市と市民が自然を守り住みよい美しい都市づくりをすすめるため、市民のレクリエーションや青少年の教育の場として自然のままの自然を永く後世に引き継ぎ広く市民の利用に供するため、開設当初より次のような基本理念をもっています。

自然のままの自然

自然をそのまま放置することなく、人々が親しみを持って自然に接することができ、きれいに整備された自然と完成された理想の自然を目指しています。

人間性の回復

人間性をとりもどす役割をもつ保健休養林として、より多くの市民を迎え、心身をリフレッシュし明日への活力を養い人間性を回復する場所です。

林業の啓発普及

森林は豊かな水源をかん養し、土砂の流出を防ぎ、植物を育てる土をつくり、そして空気をきれいにするなど多くの公益的機能をもっています。市民の愛林思想の高揚と自然愛護の精神を育てる場所です。

徒歩利用の原則

都市の騒音からのがれて、緑豊かな森林に包まれた散策路を歩くことにより、日頃の運動不足を解消し、明日のための健康と体調を整える場所です。



目次

油山の自然	02
油山の四季の紹介 (春・夏)	03
(秋・冬)	04
油山市民の森・自然観察の森マップ(主な施設)	05
市民の森の施設と利用状況	07
市民の森の建設経緯	08
油山市民の森 吊橋物語	09
写真で見る 市民の森“今昔物語”	11
市民の森・自然観察の森・油山牧場等のあゆみ	14
油山の歴史について	17
油山ひとむかし「出会いっぱいの油山」	18
自然観察センターの概要	19
も～も～らんど油山牧場の概要	20

油山の自然



水の森

■ 地形地質

油山山系は市の西南に位置し、油山山頂は標高597m、地質は花崗岩質です。油山の東側は樋井川の上流にあたり自然観察の森内にある水の森は、きれいな水質が保たれ、生きものたちも豊富に生息しています。

平野部に突出した形の油山からの展望は、東から南にかけて立花山、三日月山、若杉山、三郡山、宝満山、四王寺山、背振山の山並が一望でき、その遠くには英彦山も眺望できます。北部には、市街地を通して能古島、志賀島、玄界島、小呂島などが眺望できます。

■ 主な動物

鳥類

- (留) コゲラ キジバト エナガ ヤマガラ シジュウカラ
- (夏) ホトトギス キビタキ オオルリ センダイムシクイ ヤブサメ
- (冬) ミソサザイ ジョウビタキ クロジ ミヤマホオジロ アトリ

※(留) 留鳥、(夏) 夏鳥、(冬) 冬鳥

両生類

- ニホンヒキガエル ニホンアカガエル
- タゴガエル ニホンイモリ

爬虫類

- ヤマカガシ カナヘビ ニホントカゲ

昆虫類

- ミヤマカラスアゲハ サトキマダラヒカゲ
- アサヒナカワトンボ オオアオイトトンボ
- ノコギリクワガタ アカスジキンカメムシ
- ヤマトフキバタ ヒグラシ ハナムグリ

哺乳類

- テン ノウサギ イノシシ アナグマ



タゴガエル

■ 主な植物

高木類

- アカマツ スギ ヒノキ ヤマザクラ タブノキ エノキ コナラ
- ホオノキ クスノキ クマノミズキ ヤブツバキ

中高木類

- タラノキ ヤマウルシ クサギ ネジキ エゴノキ ヤマボウシ
- クロキ ソヨゴ リョウブ アカメガシワ カナクギノキ

低木類

- ヤブムラサキ イヌツゲ ヒサカキ イヌザンショウ ヤマツツジ

シダ類

- コシダ ウララジロ クリハラシ



ホオノキの花

春 —Spring—

もうすぐオタマジャクシ

2月ごろにニホンアカガエルというカエルの仲間は池や水溜りに産卵します。それから1ヶ月もすると、丸い形をしていた卵が変化し始め、オタマジャクシへと成長するのです。



ニホンアカガエルの卵塊



シジュウカラ

つぎつぎと咲き誇る草木の花

春の草花といえば、タチツボスミレやショウジョウバカマ、サツマイナモリなどがあります。樹木は、エゴノキやホオノキ、コガクウツギなど香りも一緒に楽しめる花がつぎつぎと咲き誇ります。



エゴノキの花

さえずり 森林浴

シジュウカラの「ツピツピツピ」やメジロの「チュルチュルチュル」、イカルの「キーコキー」、オオルリ「ピービルルル」、キビタキ「ピッピロピ」など。野鳥たちのさえずりに耳を澄まし、若葉に囲まれての森林浴はいかがですか。

夏 —Summer—



サワガニ

横歩きの人気者

自然観察の森を流れる溪流沿いに棲むサワガニ。一生を淡水で過ごすカニの仲間です。母ガニは数十個の卵や稚ガニを抱えて、敵から守ります。そっと観察してみましょう。



シロオニタケ

カマキリ

油山には、オオカマキリ、カマキリ、ハラビロカマキリ、コカマキリ、ヒメカマキリ、ヒナカマキリなどが生息しています。子供たちにも人気のオオカマキリは草木の上だけでなく道路の真ん中で見かけることもしばしば。夏の終わりには卵で腹部が膨れ上がったメスは秋に草木などに産卵します。



オオカマキリ

色とりどりのキノコ

水の森やアカマツ林はキノコを観察するのにおすすめの場所です。色とりどりの小さなものから大きなものまで実にさまざまなキノコに出会えます。

秋 —Autumn—



ハチクマ

9月上旬から10月上旬

「ハチクマ」というタカの仲間は繁殖地である日本から越冬地である東南アジアまでの長距離を渡っていきます。油山はその渡りのルート上にあり上空を渡るタカが観察できます。

実りの秋

染色の素材として利用されるクサギや野鳥たちが好んで食べるハゼノキ、人間が食べてもおいしいヤマボウシなど色も形も目を引く木の実が見ごろです。



クサギの実

彩られた森

もみじ谷には9種類ものカエデの仲間があり見事な紅葉が見られます。またヤマウルシやカキノキなどは鮮やかなオレンジ色、イチョウやイタヤカエデなどは黄色、ヤマザクラやカナクギノキなどは赤や黄色など様々な色づき方で楽しませてくれます。



もみじ谷の様子

冬 —Winter—

冬に咲く花

年に1、2度は積雪に見舞われる油山。真冬に咲くロウバイの花は香りもよく森に潤いと華やかさを与えてくれます。冬に活動する昆虫たちの大切な糧となります。



ロウバイ

冬にやってくる鳥

冬を越すために渡ってきた冬鳥のルリビタキのオスはブルーと黄色が特徴の人気のある野鳥の一種です。冬は木々の葉が落ち、野鳥たちが観察しやすいので、バードウォッチング初心者の方にもおすすめです。



ルリビタキ

冬に産卵するカエル

福岡県の準絶滅危惧種に指定されているニホンアカガエル。彼らが毎年産卵する池やその周辺の環境をこれからも守っていききたいものです。



ニホンアカガエルの抱接

油山市民の森・自然観察の森マップ(主な施設)

油山山頂▲(597m)



①キャンプ場



夏休み期間中は宿泊キャンプができます。バンガローや貸しテント、ハンゴウなど貸し器具もあり、キャンプファイヤーも楽しめます。車は侵入禁止なので荷物はリヤカーで運べます。これも、きっとキャンプの思い出になるよ!

日帰りキャンプ場



キャンプ場近くにバーベキューやハンゴウ炊さんなどが出来る炊飯所があり、日帰りキャンプとして1年中利用が出来ます。なお、貸し器具もあります。※申し込みが必要です。

②フィールドアスレチック



管理事務所から泉木の森前までのコースに「空中ブランコ」や「ネット登り」など、子供が楽しめて少しスリルがあるアスレチックを整備しています。親子やお友達とチャレンジして下さい。

③展望台



中央展望台(標高347m)、夫婦岩展望台(標高290m)いずれも市街地、博多湾などがのぞめます。

④草スキー場



草スキー場は斜面角度最大30度、43mコースや35mコースなどがありダイナミックなスピード感が味わえます。但し、滑るときは、草スキー専用のスキー(貸出もしています)で滑って下さい。

森林浴コース



山頂Aコース、Bコース及びせせらぎコースの3コース、約8,000mが整備されています。途中には、休憩所や便所、展望台、キャンプ場や溪流、滝などがあり、山頂までは大人の足で約1時間で登れます。

⑤つり橋



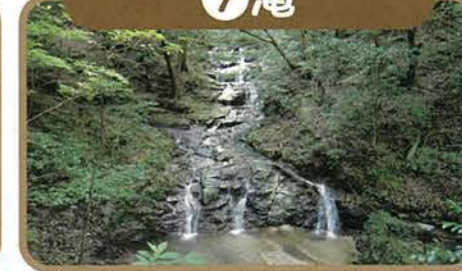
市民の森のシンボリック存在のつり橋です。高さ30m、長さ52mでスリル満点。また、周辺の樹木の新緑や紅葉は見事です。

⑥カブトムシの森



カブトムシが集まりやすい樹液の出るクヌギ等を植栽しています。

⑦滝



市民の森内には、「白波の滝」・「網糸の滝」・「山笠の滝」などがあり、散策時の休憩場所として最適です。

自然観察会



自然観察センターでは、森の生きものをテーマにした行事(バードウォッチング・昆虫ウォッチングなど)を年間約50回程実施しております。

ボランティア活動②



「油山自然案内人の会」油山自然観察の森が実施している自然観察ハイキングなどの行事のリーダーやサポートをおこなうことが主な活動です。

ボランティア活動①



「油山森を育てる会」カブトムシの森やアカマツ林を多様な生きものの暮らせる豊かな森づくりをめざして活動しています。

市民の森の施設と利用状況

主な施設

(1) 市民の森70.7ha及び自然観察の森23.0haの概要

花木園	22.1	サクラ、ツツジ、ウメ等 22,000本	森林浴コース	—	延長約 8,000m (S61~H4年度)
つばきの森	1.5	ツバキ 2,000本 (5周年,20周年記念)	林業展示林	21.1	杉、松の人工林
世界の樹木園	3.9	46種 3,000本 (10周年記念)	管理事務所	0.1	自然教室、売店、休憩所、中央広場
モミジ谷	2.0	モミジ 1,000本 (15周年記念)	駐車場	1.0	入口(105) 中央1(95) 中央2(130)
四季の園	0.3	21種 1,200本	自然観察センター	—	鉄筋コンクリート2階建 420㎡
県木の森	1.0	47都道府県550本 (56~58年)	自然観察路	—	延長 4,202m 幅員 1.5m
キャンプ場	2.3	日帰り 300人、夏休み宿泊テント・バンガロー	蝶の楽園	0.2	花園、観察路
草スキー場	1.0	最大斜度30度 43mコース	こども広場	0.5	芝生広場3面、相撲土俵、アスレチック
つり橋	—	長さ52m、幅 2m、高さ 30m	カブトムシの森	0.4	休憩小屋、観察路
展望台	—	中央展望台(347m)、夫婦石展望台(290m)	観察小屋(野鳥)	—	40㎡：1棟、416㎡：2棟
アスレチック	—	8基(20周年記念)、こども広場7基	その他	36.3	自然林、管理道路(林道)等
香りの散策路	—	延長 2,500m、1,000本 (61~63年度)			

(2) 主要樹木本数(約10万本)

杉(40年以上)	27,400	ユキヤナギ	1,500	ツバキ	2,300	レンギョウ	1,500
桧(40年以上)	42,300	モミジ	1,900	フヨウ	700	ウメ	630
松(70年)	2,000	ハギ	600	サザンカ	1,220	世界の樹木園	3,000
サクラ	3,000	ピラカンサ	1,100	ツツジ	9,200	県木の森	550
クス	320	ハナモモ	620	ナンキンハゼ	1,200	その他花木等	約 1,500

利用状況

(単位：人、台、頭)

年度	入山者数	徒歩入山者数	駐車台数	キャンプ場利用者数		自然観察センター入館者数	油山牧場入場者数	油山牧場育成頭数
				日帰り	宿泊			
昭和44年度	181,929	67,061	40,478	—	—	—	—	—
45	180,993	51,774	45,686	5,635	1,861	—	—	—
46	166,073	42,584	41,712	5,679	1,823	—	—	5,936
47	234,504	44,080	55,280	5,612	2,526	—	—	15,516
48	239,226	41,608	61,175	6,829	4,010	—	—	23,360
49	241,196	47,961	60,840	6,656	4,668	—	—	24,592
50	288,540	73,186	63,705	10,972	3,942	—	—	24,429
51	304,019	84,720	65,300	6,604	4,356	—	—	25,522
52	329,480	113,121	63,139	6,207	5,869	—	—	28,017
53	377,446	148,440	72,485	6,045	5,957	—	—	28,394
54	422,953	171,735	77,111	10,480	5,549	—	—	28,059
55	309,312	134,540	65,894	5,829	4,270	—	—	28,751
56	411,030	257,867	46,848	8,357	5,267	—	—	28,587
57	361,910	252,939	33,249	6,746	4,934	—	—	30,311
58	379,630	271,320	32,326	7,418	4,748	—	—	27,376
59	376,630	260,710	32,996	9,265	3,990	—	—	22,815
60	287,346	193,792	33,162	8,093	3,912	—	—	17,528
61	236,304	130,009	33,969	8,610	3,339	—	—	17,753
62	233,450	140,536	29,272	7,208	2,388	—	—	18,815
63	257,782	136,007	33,101	8,286	2,691	20,480	—	19,813
平成元	286,040	149,338	36,273	8,621	3,109	24,058	—	23,851
2	289,792	148,675	35,197	8,737	3,039	24,889	—	22,806
3	275,628	135,564	35,205	9,688	2,339	25,173	—	20,183
4	266,235	108,863	39,777	11,900	2,812	29,340	—	13,812
5	278,715	121,308	39,568	11,645	2,817	34,990	—	16,588
6	269,010	111,352	40,124	12,282	2,512	30,763	—	19,207
7	238,500	95,968	36,328	10,001	2,168	27,133	—	23,813
8	289,731	126,664	41,583	11,035	2,420	22,926	392,310	25,544
9	269,700	133,136	35,082	12,795	1,921	22,696	533,000	22,843
10	249,800	124,622	32,129	11,637	2,042	20,958	499,000	29,200
11	227,707	109,782	30,262	9,853	2,039	19,447	441,485	26,017
12	224,563	95,319	32,699	9,989	1,697	22,858	412,931	27,447
13	233,026	94,026	34,853	10,116	2,013	24,366	418,009	29,042
14	206,229	83,892	30,810	10,130	1,297	20,674	385,845	27,807
15	204,649	86,803	30,112	10,075	1,660	20,086	389,021	35,657
16	193,460	77,430	29,726	9,925	1,112	19,363	352,836	32,863
17	192,136	77,515	29,525	10,774	1,517	19,859	353,363	30,644
18	181,015	72,019	28,192	10,571	1,197	19,943	334,515	29,568
19	177,348	73,134	26,879	9,069	1,398	19,826	325,029	28,496
20	186,156	74,809	28,581	9,955	1,314	20,264	345,545	22,984
合計	10,559,193	4,764,209	1,660,633	349,329	116,523	490,092	5,182,889	923,946

市民の森の建設経緯

市民の森は、明治100年を記念して市民の直接参加のもとに建設されたユニークな自然の森です。

市民の森の建設は、昭和42年の年頭の市長記者会見において、生活環境整備の重点事業のなかで「健康的で緑あふれる自然を満喫できる市民レクリエーションの場としての油山総合開発」という基本構想が発表されたことに始まります。

昭和43年は明治100年を迎える年にあたり、国、県、市町村がそれぞれ明治100年を記念する各種事業を企画しました。福岡市では、昭和42年8月、市、市議会、経済界、労働団体、自治会、学界、文化団体など各界の賛同のもとに、阿部市長を会長とする「福岡明治100年記念委員会」が発足しました。

記念委員会では、いろいろな記念事業が検討されましたが、油山総合開発構想にもとづいて、市民の森を記念事業とすることが決まりました。この年の11月には、市民の積極的な参加を得るための推進母体として、「市民の森運動本部」(本部長・森 俊雄氏)が設けられました。

運動本部では、昭和42年から3ヵ年計画で市民の森づくりを進めることを決め、市民の森建設についての市民の幅広い意見をまとめるとともに、これを実現するために自主的な市民参加を呼び掛けました。「僕の木、私の木を植えよう・一木一樹を市民の手で」と植樹や施設などの募金活動をはじめ、シンボルマークの募集、ミス市民の森の選出、市民植樹祭など、多彩な催しで市民の関心を高めました。これら植樹祭には多くの人々が参加し運動を推進しました。

市では、市民の森建設にあたり、関係部局でプロジェクトチームをつくり、基本計画、実施計画の樹立、土地基盤(道路、広場、排水路、園地造成など)の整備事業を主体に推進にあたりました。また具体的な市民の森の造成計画については、造園、林業の専門家である九州大学、九州産業大学の先生方の助言、指導をうけました。

地元では、当時の福岡市森林組合長が先鞭をきって油山の植林、林道の開設、用地の寄附などに積極的に協力され、日頃から云われていた「長尾山市有林72haは市民のいこいの場に開放しては……」との提言が実現したわけです。また同組合長は市民の森内に60年杉、70年杉の植林、保育に尽力されました。

このようにして市民の森建設運動は、個人、法人、

奉仕団体、また福岡市出身の在京者など、善意の輪は市外にまで広がりました。総額5,700万円にのぼる寄附によって、キャンプ場、水の森、こだまの森、夫婦石及び中央展望台、つり橋、自然教室、草スキー場などの施設が次々と着工され、サクラやレンギョウ、世界の樹木など2万本をこえる花木も植樹されました。

建設途中の昭和43年4月12日には、皇太子ご夫妻(現天皇陛下・皇后陛下)が夫婦石展望台にお立ちになり「立派に成長した市民の森を再び訪れてみたい。」という感銘深いお言葉を賜りました。

市民の善意と協力により昭和44年12月計画の各施設が完成、市民の森は運動本部から市に寄贈されました。さらに昭和45年から3ヵ年計画で市民の森の南側に国有林28.8haを借りうけ、乳牛の子牛を育てる油山牧場が完成しました。

昭和44年12月に市民の森運動本部は事業を終え解散しましたが、かわって翌年10月に市民各界による「市民の森協会」が設立され、登山者のサービスを開始しました。

市は、昭和44年4月に市民の森管理事務所を設置して、利用者の安全と、森林の管理につとめています。その後も、市民並びに各団体からの植樹、施設の寄贈などがあって、年を追うごとに内容を充実させていきました。

昭和55年4月からは、(財)福岡市森林公社が管理業務を行うようになりました。また、同年から、水の森周辺を中心にして23haの自然観察の森の整備に着手し、昭和63年4月にオープンしました。

さらに、平成6年に市民の森開設25周年記念として、カブトムシの森がオープンし、平成3年度から再整備が進められた油山観光牧場(47.47ha)が平成8年7月に開場しました。

このようにして、40年の年月を経過し、当初72haであった市民の森は、自然観察の森、油山牧場を含め、現在141.17haに拡充、建設当時から植栽されてきた樹木も、自然木とあわせ約10万本に達しております。

現在、年間18万人の利用者があり、油山牧場あわせて約53万人もの多くの市民の方に利用され、四季を通じて変化する色彩を求めてのハイキングや自然にふれあいながら楽しむレクリエーションの場として親しまれています。

《 油山市民の森吊橋物語 》

みなさん、市民の森の吊橋が二代目だと知っていましたか？

初代の吊橋は、なんと個人からの寄贈で建設されていました。

この方は、当時南区の大橋に生まれ、竹内光行・シサノ夫妻です。

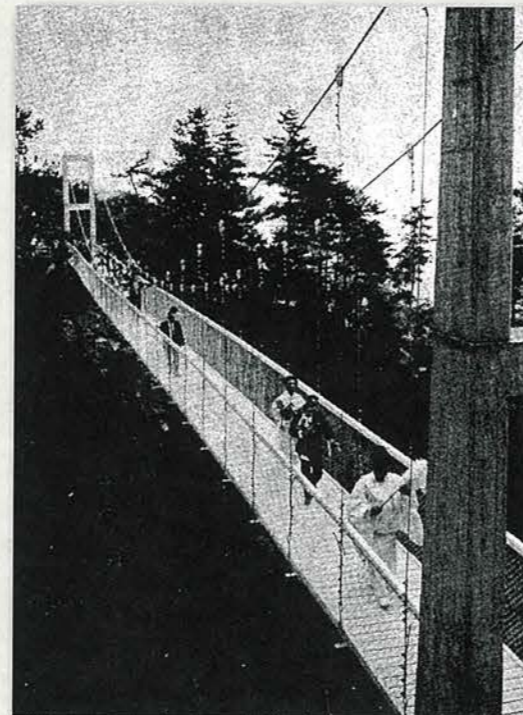
夫妻は、“市民の森”建設運動を知り、はじめは百万円ほどの寄付を考えていましたが、吊橋の計画を聞き、「それなら、いっそのこと吊橋全部を寄贈しよう」と、その建設費二百万円をそっくり寄付することになったそうですが、設計の段階で吊橋の長さが予想より10mも長くなるのがわかり、建設費も百万円もオーバーして総建設費三百万円もかかることが判明し、これを伝え聞いた竹内夫妻は、不足分の百万円も負担し、合計三百万円の寄付の申し出をされたそうです。

この吊橋は、市民の森を訪れた家族づれが散策しながらこの吊橋に到り、ここから“藤と椿の谷”（現在のもみじ谷）を觀賞してもらおうという、いわば觀賞用の散策用吊橋として設計されました。

完成（昭和44年8月18日）した吊橋は、幅は、1.5m・長さは52.2m・谷底からの高さ32mという觀賞用の吊橋としては当時西日本一と言われていました。



吊橋のテープ切り、左から阿部市長・寄贈主の竹内夫妻
市民の森運動本部 森本部長



神主さんを先頭に竹内夫妻・市長夫妻と渡りぞめがつづく

この吊橋が完成すると市民の森を訪れた市民は、珍しさも手伝ってこの吊橋に殺到しました。もともとこの吊橋は、設計時に1日当たりの通行量を300人程度で、また吊橋の中間での横ぶりをしてはいけない事になっていました。

ところが、完成後の1日当たりの通行量が約3,000人で設計時の約10倍にもなり、また、横ぶりも夜間アベックが来て彼女を怖がらせるためか、人目のないところでドンドンやるため、吊り橋の金具が痛み開通後二ヶ月で通行止めになりました。

このため、どうせ補修工事をやるなら設計の一部変更をやり、横ぶれ防止のための耐風策をとりつけることになり、この補修工事の百二十万円も竹内夫妻より寄付して頂いて翌年の6月に再オープンいたしました。

しかし、管理事務所としては今後吊橋に無理が来ないように、常時係員を置いて、吊橋を渡る下記の心構えを徹底させることにいたしました。

1. ある程度の間隔をとって渡ること。
2. 横ぶりをしたり、走ったり、ロープにぶらさがったりしないこと。
3. 風の強いとき、雨のとき、積雪のときは渡らないこと。
4. 渡れる時間は毎日午前9時半から午後4時半までとし、それ以外の無断通行は禁止すること。



山から山へ懸かった空中の吊橋、トビ職たちが補強工事を急いでいる

この、市民の森のアイドルであった吊橋も、次第に木質部が腐食したりロープが伸びたりしたので、折からの「開設10周年記念行事」が行われるので、これを機会に寄贈者の厚意を生かし、つとめて原形を維持するようにして、より耐久性のある吊橋として市が改修工事をいたしました。

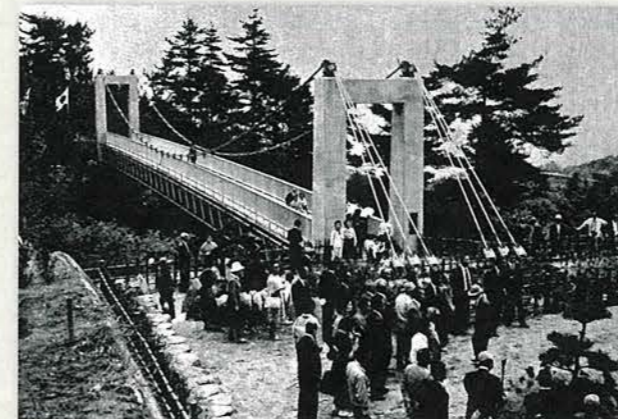
これが、現在の吊り橋です。

赤と白のツートンカラーで全長 52m・幅員 2.0m、床板はアスファルトになりました。

あれから、30年！赤白のツートンカラーも何回か塗り替えをし、今も市民の森の象徴として市民の方に親しまれています。



改修後の初代吊橋



改修後の「渡り初め式」昭和53年5月8日



現在の吊橋

写真で見る 市民の森“今昔物語”

左側は昭和45年～50年頃の写真です。
みなさん、どこの(市民の森内)場所かわかりますか？



市民の森・自然観察の森・油山牧場等のあゆみ



		市民の森・自然観察の森・牧場のできごと		その他の主なできごと	
1965	昭和40年	3月	黒の原林道完成。延長 3,192m	10月	朝永振一郎氏ノーベル賞受賞。
1967	昭和42年	1月	阿部市長、年頭記者会見で長尾山市有林72haを市民のレクリエーションの場とする「油山総合開発」の基本構想を発表。	6月	油山青年の家開館。
		3月	東油山林道完成。延長642m	9月	福岡～釜山航空路開設。
		6月	明治百年記念行事世話人会発足。「市民の森造成」を記念事業として検討。	10月	ソ連「金星4号」軟着陸に成功。
		8月	福岡明治百年記念委員会を、市、市議会、教育委員会、その他目的に賛同する民間諸団体と学識経験者で組織し、阿部市長を会長に選び発足。記念事業は油山に「市民の森」を造成することに決定した。また、全市民の記念事業とするため「市民の森運動本部」の設置を決定。		
		10月	「市民の森運動本部」は、民間諸団体により構成し、本部長・森俊雄氏、幹事長・貝島義之氏を選出し、スタート。		
		11月	市民の森運動本部発足記念植樹祭を開催。営林局長、県知事、日本桜の会会長、桜の女王、その他多数の来賓を迎え、500人を超える市民参加。		
		12月	福岡南ロータリークラブから創立10周年を記念して樹木93種1,100本を寄贈される。		
1968	昭和43年	4月	皇太子殿下ご夫妻、夫婦石展望台にご来臨。春の市民植樹祭開催。市民約1,500人が参加。ミス市民の森発表。黒田真理子さんらミス市民の森、椿の精、つつじの精、藤の精、桜の精を選出する。市民の森シンボルマーク発表（当時の夕刊フクニチ新聞社の協力で2,000点の応募作より選定）。	6月	小笠原諸島返還。
		7月	高松宮ご夫妻ご来訪。楠を記念植樹される。	9月	市中央卸売市場青果市場開場。
		8月	オークランド市のYMCA一行、ホルトノキを記念植樹。	10月	川端康成氏 ノーベル賞受賞。
		12月	油山市民の森基本計画書作成。基本理念を「自然のままの自然」「人間性の回復」「林業の啓発普及」「徒歩利用の原則」とする。	12月	東京府中市で3億円奪取事件。
1969	昭和44年	3月	芝生と岩の広場（草スキー場）、赤松展望台、こだまの森、野鳥の森、水の森、夫婦石展望台、キャンプ場完成。	7月	アポロ11号、月面着陸。人類初の月面踏査。
		4月	「油山市民の森条例」制定。条例に基づき「市民の森管理事務所」を設置し、市民の森の管理にあたる。春の市民植樹祭開催。夫婦石展望台広場に市民約8,000人が参加、展望台の除幕式、花木園での記念植樹を行なう。	10月	「福岡市民のこぼ」制定。（市制施行80周年記念事業）
		8月	つり橋完成。南区竹内光行氏ご夫妻が運動本部を通じて寄贈。		
		10月	中央展望台完成。		
		12月	市民の森献納式並びに「市民の森運動本部」解散式。2カ年にわたる市民の森建設の市民運動を展開し、約5,700万円余の寄付を募り目標の全施設が完成。		
1970	昭和45年	3月	桜河内林道完成。延長1,438m	2月	人工衛星「おおすみ」打ち上げ成功。
		4月	常陸宮ご夫妻ご来訪。タイサンボクを記念植樹される。銀杏休憩所完成。博多織元卸商業組合の寄贈。	3月	万国博開幕。
		7月	キャンプ場一般開放する。	5月	博多駅地区土地区画整理事業完了。
		10月	「市民の森協会」発足。会長に赤羽善治氏（商工会議所会頭）副会長に木本元敬氏（観光協会会長）を選出。		
1971	昭和46年	3月	油山青少年自然教室完成。福岡市観光協会が建設。鉄筋コンクリート2階建、延面積621㎡。	4月	志賀町合併。
		9月	市民の森を中心とした油山オリエンテーリング公認コース開設。	11月	中国国連加盟。
1972	昭和47年	11月	福岡市政令指定都市発足記念植樹祭。県、市、市議会、市民の森協会関係者、元市長ほか多数の有志が、夫婦石展望台広場に楠を、駐車場一帯にヒマラヤシーダーを記念植樹。	2月	札幌オリンピック開催。
				4月	福岡市政令都市発足。（5区制）
				5月	沖縄祖国復帰。



		市民の森・自然観察の森・牧場のできごと	その他の主なできごと
1973	昭和48年	3月 福岡市政令指定都市発足記念として、西区老人クラブ連合会がナノミ、南天など実のなる木を記念植樹。 4月 油山牧場開場式。九州農政局、福岡営林署、県、市、市議会、酪農団体関係者多数が出席。(工期45～48年。総面積32.6ha、工費17,200万円) 12月 桜河内林道～牧場の散策道完成。延長1,300m。	4月 元市長・阿部源蔵氏初の名誉市民となる。
1975	昭和50年	3月 楠の森造成、テレビ西日本から楠200本寄贈。 4月 つばきの森造成、市民の森協会事業として、椿250本の市民記念植樹。 6月 日時計設置。福岡県貴金属眼鏡商業協同組合から寄贈。	3月 早良町合併。 山陽新幹線博多乗り入れ。 10月 福岡市人口 100万人突破。 沖縄海洋博開催。
1976	昭和51年	3月 梅園造成。市民の森協会5周年記念事業として、梅210本の市民記念植樹。 6月 ホルトの森造成。福岡ライオンズクラブから創立20周年記念事業として、ホルトノキ2,000本寄贈。	9月 天神地下街完成。(延長360m)
1977	昭和52年	4月 四季の園造成。国際ソロブチミスト福岡から花木など900本寄贈。 10月 太陽電池時計設置。九州郵政局の手によるもの。	4月 (財)福岡市森林公社設立。
1978	昭和53年	5月 新しいつり橋が開通。市、市議会、市民の森協会関係者、前つり橋寄贈者、市民多数が参加し、テープカット。 新オリエンテーリング公認コース開設。 9月 市民の森協会が、市民の森10周年記念事業として記念植樹募金活動を開始。 11月 市民の森10周年記念式典並びに記念植樹祭を開催、10周年記念事業として世界の樹木園造成。世界の代表的な樹木46種3,000本の市民記念植樹。	5月 新東京国際空港開港。 90年ぶりの異常渇水による制限給水。(翌年3月まで287日間) 8月 日中平和友好条約締結。
1979	昭和54年	12月 「世界の樹木園」記念碑除幕式。	2月 市内路面電車廃止。 10月 「市の木・市の花」制定。 (市制施行90周年記念事業) 11月 福岡市美術館開館。 6月 福岡市植物園開園。
1980	昭和55年		
1981	昭和56年	5月 身障者用日帰りキャンプ場完成。飯田産業グループから寄贈。 7月 市民の森有料駐車場(中央)利用開始。	3月 神戸「ポートピア'81」開幕。 7月 福岡市営地下鉄開業(室見～天神)。 9月 福岡市人口110万人突破。
1982	昭和57年		5月 行政区再編成により7区制。
1983	昭和58年	6月 四季の園碑完成。国際ソロブチミスト福岡から寄贈。 県木の森完成。47都道府県の県木、21種550本植樹、面積1ha。	3月 地下鉄1号線開業(姪浜～博多)。
1984	昭和59年	4月 組織変更により、財団法人福岡市森林公社市民の森管理事務所として市民の森の維持管理にあたる。 6月 市民の森開設15周年記念として九州朝日放送から水の森に便益施設(野外卓、ベンチ)寄贈。 12月 市民の森開設15周年記念式典並びにもみじ谷2ha造成。記念植樹としてもみじ8種類1,000本、記念碑を市民の森協会より寄贈。	11月 花畑園芸公園一部開園。 (63.11全面オープン)
1985	昭和60年		3月 科学万博(つくば博)開幕。 10月 九州初の駐輪条例施行。
1986	昭和61年	4月 もみじ園造成、もみじ320本植樹、福岡県緑化推進委員会福岡支部から寄贈。 市民の森有料駐車場(入口)利用開始。 森林浴コース事業着手及び便益施設整備。	11月 地下鉄2号線開業(中洲川端～貝塚)。 2月 元市長・進藤一馬氏 名誉市民となる。 11月 平和台球場で鴻臚館の遺構を発見。
1987	昭和62年		
1988	昭和63年	4月 市民の森協会が市民の森20周年記念企業として記念植樹募金活動を開始。	3月 青函トンネル開通。 4月 瀬戸大橋開通。

		市民の森・自然観察の森・牧場のできごと	その他の主なできごと
1989	平成元年	3月 自然観察の森オープン。面積23ha、自然観察センター、自然観察路、誘致林、観察小屋設置。 香りの散策路完成、散策路延長2,500m、樹種7種類1,000本。 市民の森20周年記念事業として、平成の滝、休憩所建設。 4月 市民の森20周年記念式典並びに記念植樹祭を開催、20周年記念事業としてつばきの森植樹園造成、椿1,400本市民記念植樹及びアスレチック建設。	5月 福岡市人口 120万人突破。 7月 市役所新庁舎開庁。 3月 アジア太平洋博覧会開幕。 (よかトピア:3月～9月) 4月 福岡市制 100周年。 8月 博多の森陸上競技場が完成。 9月 第45回 国民体育大会開催。 10月 福岡市博物館開館。 11月 福岡市人口 125万人突破。
1990	平成2年		
1991	平成3年	4月 油山観光牧場整備に着手。	
1992	平成4年	4月 カブトムシの森整備に着手。	
1993	平成5年	2月 カブトムシ観察小屋完成。 3月 森林浴コース完成。延長800m、休憩所6、便所1ほか。	3月 地下鉄空港線開業(博多～福岡空港)。
1994	平成6年	7月 市民の森25周年記念式典。カブトムシの森オープン4,000㎡。	9月 アジア太平洋都市サミット。 1月 阪神・淡路大震災。 8月 マリンメッセ福岡開館。 ユニバーシアード福岡大会開催。 9月 国際スポーツ都市宣言。
1995	平成7年	3月 キャンプ場交歓広場の炊飯場完成。	6月 福岡市総合図書館開館。
1996	平成8年	7月 油山牧場再整備により開場。 11月 油山牧場愛称「もーもーらんど」決定。	5月 アジア開発銀行福岡総会開催。 福岡市人口 130万人突破。
1997	平成9年	3月 市民の森駐車場造成工事(第1期)完了。 4月 市民の森入口～管理事務所間の道路整備着手。 (平成11年度完了予定) 11月 牧場まつり開催。(以後毎年実施)	
1998	平成10年	3月 油山牧場立体駐車場利用開始。 4月 四季の園に国際ソロブチミスト記念植樹。 自然観察の森10周年記念事業を実施。(記念行事として各種実施 ～3月) 6月 市民の森協会によりバンガロー整備完了。 (平成9年度から、建替7棟・補修4棟)	2月 長野冬期オリンピック開催。 福岡市市民福祉プラザ開館。
1999	平成11年	3月 市民の森有料駐車場(中央第2)利用開始。 7月 キャンプ場にシャワー室(冷水)設置。 12月 平成の滝の水車小屋再整備。	3月 福岡アジア美術館開館。 6月 博多座開設。 8月 博多港開港 100周年。
2000	平成12年	3月 市民の森入り口～管理事務所間の道路整備完了。 財団法人福岡市森林公社は同森と緑のまちづくり協会へ統合。	7月 九州・沖縄サミット福岡蔵相会合開催。
2001	平成13年		7月 第9回世界水泳選手権大会福岡2001開催。
2002	平成14年	11月 牧場再整備開場後、入場者300万人突破。 12月 山桜200本、宝くじ協会より寄贈。	6月 ロボカップ2002福岡・釜山開催。
2003	平成15年		3月 福岡国際会議場開館。
2004	平成16年		
2005	平成17年	7月 市民の森と牧場との園内をバス通行開始。	2月 地下鉄七隈線(橋本～天神南間)開業。 3月 福岡県西方沖地震発生。
2006	平成18年	4月 (財)福岡市森と緑のまちづくり協会が指定管理者となり管理運営。 7～8月 油山牧場開設10周年記念事業「サマーフェスティバル」。	4月 第34回世界クロスカントリー選手権福岡大会開催。
2007	平成19年		2月 釜山広域市と姉妹都市締結。
2008	平成20年	2～3月 自然観察の森開設20周年記念。 記念写真展開催(本庁・区役所等3箇所) 9月 牧場再整備開場後、来場者500万人突破。	3月 福岡県西方沖地震から3年、玄海島島民帰島完了。 11月 油山青年の家閉館

油山の歴史について

油山には、はるか昔大伽藍（寺院または主要な寺院群）があり、九州の仏教文化の中心として栄えていたという歴史がありました。

古い文献によりますと、油山の歴史は今から約1,400年ほど前に清賀上人という西域（中国のはるか西方の国々ペルシアやインドなど）からきた僧が、油山の中腹にお堂を建て千手観音像を刻んで観音堂を建てた時から始まりました。

この清賀上人は、油山で胡麻を栽培して油を搾って怡土郡諸寺（糸島方面のお寺）に配っており、そこでこの地が油山と言われるようになったそうです。^{*1}

その後、約1,260年前に名僧行基が来て、観音堂の外に泉福寺を建てその本尊として聖観音座像を刻んでいます。^{*2}

この行基が去って、泉福寺が衰退していたが、約810年前に鎮西国師が来山し、学頭（一宗の学問の統轄者）になり、筑前仏教文化の中心として栄えました。

当時の油山には、東油山には東油山泉福寺、西油山には西油山天福寺があり、各々の寺には360合わせて720の僧坊（僧尼が居住する寺院付属の坊舎のこと。）がありました。^{*3}

その後、約430年前に天福寺は寺同士の紛争に、また泉福寺は戦国時代の戦乱に巻き込まれ、大伽藍は消失してしまいました。

その後、約300年前に泉福寺の跡地に、博多承天寺の住職が今の正覚寺を建てて現在に至っております。

- *1 「筑前国続風土記」では、胡麻で油を搾ったように明記されているが、通称は油山に群生していた椿の実で油を搾ったように言われています。
- *2 この聖観音座像は、1906年に国指定重要文化財になっています。
- *3 僧坊跡：正覚寺（泉福寺跡）参道左側に当時の石垣が残っています。



鎮西国師学寮跡

油山ひとむかし

「出会いいっぱいの油山」

記：油山自然観察の森チーフレンジャー 永松愛子（財団法人 日本野鳥の会）

■ 道

20年と少し前、初めて市民の森を訪ねたとき、観音さんから市民の森までの、くねくね曲がった細い道は、いったいいつまで続くのかと不安になったものです。その頃、市民の森内の散策路はほとんど土の道でした。森と草地と道が自然につながっていて、生きものは自由に森の中を行き来していたので、道を歩く私たちもわりとよく生きものに出会いました。ノウサギがちょこんと道に座っていたり、イタチが昼寝をしているところに出くわした事もあります。イタチが目を覚まさないように、そ〜と傍を通り抜けると、寝ぼけ眼でちょっと頭を上げただけで、また寝てしまった事を思い出します。



■ 花

油山の桜は、市街地より1週間ほど遅れて咲いていました。それも麓の方からだんだん上の方へ、開花が進んでいきます。日に日に変化するその様子は、とても素敵なおもてなしでした。市民の森の春は、色の移り変わりで、私のイメージに刻み込まれています。ユキヤナギの白、レンギョウの黄色、サクラの淡いピンク色、そしてツツジの濃いピンクです。道端も日当たりがよく、たくさんの草花が見られました。春にはタチツボスミレやフデリンドウなどの水色、初夏にはノアザミのピンク、秋にはアキノノゲシやシマカンギクなどキクの仲間の黄色と、季節ごとの色が印象的でした。

■ 里山の雑木林

油山には、いたるところに炭焼き釜の跡が残っています。コナラやリュウブなど森の木を炭材などとして利用していたのでしょう。その頃の森は、おそらく手入れも行き届き明るかったことでしょう。

自然観察の森がオープン（1988年）した当初は、森をパトロールして明るい道端で草花をよく見かけました。特に秋のヤクシソウはいたるところに咲いていたように思います。また、オミナエシやセンブリなども、普通に見られていました。ふと気がつくと、木々は生長し、森は随分暗くなり、林床に咲く草花の姿は少なくなった様な気がします。



■ ひょっこり現れる生きものたち

長い間油山に通っていると、時折、普段とは違った出来事を体験します。1992年の夏、昆虫の観察をするために糖蜜を木に仕掛けていたときのこと、毎日のように見かけるルリタテハやサトキマダラヒカゲなどにまじって、淡いながらもなかなか派手な色をしたスミナガンという蝶が来ていました。特に珍しいとかいうことではないようですが、この印象深いチョウにはその後会っていません。

また、自然観察センターに居乍らにしてイスカという、赤い鳥をじっくり観察できたのは、ラッキーとしか言えない体験でした。イスカは7~8年に一度見ることができるといわれる冬鳥です。マツボックリの種子を食べる為に嘴の先が食い違っているというユニークな姿をしています。1990年11月センターのベランダから見えるアカマツに群れて飛来し、ひとしきりマツボックリを食べていきました。

福岡市油山自然観察の森 自然観察センター



自然観察センターでは油山に棲む生きものや四季折々の旬の情報を展示やホームページ（「油山自然観察の森」で検索）などで紹介しています。年間を通して自然観察会や森あそびなどの行事を実施し、市民の皆様は自然に親んでもらえるよう様々な取り組みを行っています。

●自然観察センター主催行事

自然観察センターには（財）日本野鳥の会のレンジャーが常駐し、森の生きものをテーマにした行事を年間約50回程度実施しています。油山の森を活かしたバードウォッチングや自然かんさつハイキング、昆虫ウォッチングや草木染め、クリスマスリース作りなどの行事があり、年間参加者数は約2,500人にのぼります。

●ボランティアグループの育成

自然かんさつハイキングなどの行事のサポートを主な活動としている「油山自然案内人の会」と自然観察の森の一部で環境調査や間伐、草刈など、里山を維持するための保全活動を行う「森を育てる会」があります。レンジャーはボランティア育成という立場で活動を支援しています。

●学校や公民館などの団体対応

油山を遠足や総合学習の勉強で利用する学校や山登りの会、町内の集まりなどで来園するグループに紙芝居や見所紹介、ガイドウォークなど団体向けの対応を行っています。年間約3,200人もの利用者がいます。

●広報や展示、施設の維持管理

隔月発行している「もりのしんぶん」や森の様子を紹介したホームページの作成・管理、館内や野外の展示の入れ替えなど施設の維持管理を行ない、来館者が何度来ても楽しんでもらえる空間づくりに取り組んでいます。



↑自由に遊べる広い館内の様子。



↑油山自然案内人の会の会員のサポートで行事を実施。
↓レンジャーが生きものを紹介する紙芝居イベント。



↑センターのペランダにある望遠鏡は子どもたちに人気。
↓森を育てる会による間伐などの森の保全活動の様子。



《利用案内》

開館 9:00~16:30
休館日 毎週月曜日
(月曜日が祝日の場合は翌日)
及び12月29日から
翌年の1月3日まで
入館料 無料
貸出 双眼鏡・図鑑

もーもーらんど 油山牧場



福岡市街から車で約30分。豊かな自然に恵まれた油山の中腹、標高319mに、牛や馬や羊たちが、のんびりと草をはむ。そんな牧歌的な風景の中で、のんびり羽をのばしてみませんか。この牧場は、動物たちだけではなく、人の心も大きく育ててくれます。



↑遊んだあとは腹ごしらえ。胃袋の準備はいい？
↓赤いトラクターと一緒に記念写真を撮ろう！



↑自然の中でのびのびと過ごす牛たちがいっぱい！
↓わくわく乗馬体験。



↑さあ、上手にできるかな？
↓楽しい遊具がいっぱい。どれから遊ぶ？



《ご利用案内》

■開場時間 午前9時~午後5時
(レストラン・バーベキューデッキは季節により営業時間の延長もいたします)
■休場日 毎週水曜日(その日が祝日のときは、その翌日)及び12月29日から翌年の1月3日まで

■入場料 無料

■駐車場料金 普通自動車300円・中型自動車1,000円・大型自動車2,000円(1台1回、1日以内)
※団体貸切バス等でご来場される場合、事前にご連絡ください。
※駐車台数に限りがありますので、土・日祝日はできるだけバスをご利用ください。

交通案内



バス利用の方

●博多駅・天神より片江・桧原営業所行き(13番・113番)「油山団地口」バス下車。

◎上記「油山団地口」バス停から市民の森へはさらに徒歩約1時間。

なお、3月～11月までの土・日・祝日のみ「福大病院東口」から「油山団地口」経由で「市民の森」行きの西鉄臨時バスが運行。

※「福大病院東口」のバス停、地下鉄七隈線「福大前駅」出入口1より出てすぐです。

マイカー利用の方

●市民の森駐車場/駐車台数330台

●駐車料金/普通自動車300円、中型自動車1,000円、大型自動車2,000円

●駐車場利用時間/午前9時～午後6時

お問い合わせ

油山市民の森管理事務所

((財)福岡市森と緑のまちづくり協会 市民の森・牧場管理課)

〒811-1355 福岡市南区大字桧原855-4

TEL:092-871-6969 FAX:092-871-6909

ホームページ <http://www.mori-midori.com/>

- 団体利用:20名以上の団体は事前に届出をお願いします。
- キャンプ場 申し込みが必要
宿泊キャンプ:夏休み期間中のみ実施
日帰りバーベキュー・炊飯:年中利用可能
- 油山市民の森情報テレフォンサービス:092-861-8686

自然観察センター(ネイチャーセンター)

〒811-1355 福岡市南区大字桧原855-1

TEL:092-871-2112 FAX:092-801-8661

ホームページ <http://www.wbsj.org/sanctuary/aburayama>

- 開館時間:午前9時～午後4時30分
- 入館料:無料
- 休館日:毎週月曜日と年末年始(月曜日が祝日の場合はその翌日)
- 貸出品:双眼鏡・野鳥図鑑



編集・発行/福岡市農林水産局農林部農業政策課

協賛/九州電力株式会社福岡支店

編集協力/油山自然観察の森レンジャーのみなさん